

## モズクからフコイダン製造、安価供給も可能

琉球大学農学部 田幸正邦教授は、抗ガン作用などの機能をもつ多糖類の「フコイダン」をオキナワモズクから多量に分離・精製する技術を開発した。フコイダンは、昆布やワカメなどの海藻に含まれているが、フコイダンの含有量が少ないため量産化が難しく高価な素材。今回の開発で量産化が実現すれば、国内外へフコイダンが低価格で供給できる。フコイダンは抗ガン作用のほか、コレステロール低下作用や抗エイズウイルス、抗胃潰瘍などの作用が確認され、注目を集めている機能性素材。最近では、宝パイオヘルスケアが昆布からとれたフコイダン入りの飲料を発売した。

田幸教授は、オキナワモズクには多糖類中にフコイダンが90%以上と高含有していることを確認、酸性溶液でオキナワモズクからフコイダンを抽出しアルカリで中和、電気透析装置で脱塩し、凍結乾燥し調整する技術を開発した。利用目的に応じ、分子量の違うフコイダンを調整できる。フコイダンは、医薬品や機能性食品のほか、保湿性に優れているため化粧品用途も見込まれている。モズクは93年に過剰生産され、価格が暴落。その後、生産調整され今年の生産量は6000t足らず。今回の開発が沖縄のモズク産業を活性化させ、産業振興につながることを期待されている。